

石川大夫、任を遷されて京に上る時に、

播磨の娘子の贈る歌二首

一七七六番

絶等寸の 山の峰の上の 桜花 咲かむ春へは
君し憇はむ

一七七七番

君なくは なぞ身装はむ くしげなる 黄楊の
小櫛も 取らむとも思はず

藤井連、任を遷されて京に上る時に、娘子の

贈る歌一首

一七七八番

明日よりは 我は恋ひむな 名欲山 岩踏み平し
君が越え去なば

藤井連の和ふる歌一首

一七七九番

命をし ま幸くもがも 名欲山 岩踏み平し ま
たまたも来む